

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

| | | | | |
|----------|--|-------------|----------|--------------------|
| 学校番号・学校名 | 〈中・25〉 | いわき市立 | 江名 | 中学校 |
| <実施日> | 平成 27 年 10 月 9日(金) 16日(金) 23日(金) | | | |
| <実践教科等> | ※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。 | | | |
| 1 理科 | ② 学級活動 | ③ 総合的な学習の時間 | 4 その他() | |
| <実践内容> | Save the Children Japanの講師による出前授業 (1) セッション1 ①原発事故発生からこれまで過ごしてきた時間を振り返る。 ②放射能の基礎知識と外部被ばくから身を守るための方法を学ぶ。 ③空間放射線量を計測し、身近な放射線の存在を認識すると共に、たまりやすい場所の傾向を体験学習を通じて学ぶ。 (2) セッション2 ①内部被ばくから身を守るための知識を身につける。 ②放射性物質を含みやすい食材の傾向を知り、対処方法や情報の調べ方を知る。 ③食品の安全性について多様な考えがあることを知り、自由に自分の意見を話したり、他者の異なる意見を聞いたりして、考えを深める。 (3) セッション3 ①セッション2の発展形として、給食をテーマにした宿題を使い、食の安全性に対して多様な考えがあることを知り、自由に自分の意見を話したり、他者の異なる意見を聞いたりして、考えを深める。 ②居住をテーマに、震災・原発事故後に変わってしまった子どもたちの様々な環境について知る。 ③同様のテーマでの話し合いを通じて、放射能問題の受け止め方の多様性を学ぶ。 | | | |
| <成果> | ○放射能や放射線量について興味・関心が高まり、学んだことからさらに追及したいと思う生徒が多くなった。 ○放射能のことについて学ぶことは大切だと思う生徒が多くなった。 | | | |
| <課題> | ○1～3学年ともに同じ内容で行ったので、次年度以降の2学年、3学年の内容をどのように発展させていくかが課題である。 | | | |
| 資料作成担当者職 | (教諭) | 氏名 | (遠藤 勝) | 学校電話番号 (55-7043) |

【資料作成上の注意】

- 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
- 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先: kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)